

---

## 講 演

---

(昭和十二年四月一日造船協會創立四十年記念祝賀會に於て講演)

# 過去四十年間に於ける帝國軍艦の發達

正 員 山 本 幹 之 助

造船協會創立四十年記念大會に當りまして、閣下並に諸君の前に於て過去四十年間に於ける帝國軍艦の發達に就て講演致しますことは、私の無上の光榮とする所であります。

講演時間の關係機密の點よりして極めて概略の輪郭だけしか御話し出來ませぬことは誠に遺憾に存じますが、不惡御了承を願ひます。

帝國軍艦の發達に就きましては既に大正十一年當協會創立二十五年祝賀會の講演に於て山本開藏博士が「過去二十五年間に於ける帝國軍艦の發達に就て」といふ題目で御述べになつて居りますから、本日は其の後十五年間の事を申述べればよろしい譯であります。四十年間の歴史を申述べる順序として重複致しますが重ねて初めから概略を申上げる事と致します。

便宜上各艦種別に其の進歩發達の概要を申述べます。

## 戦 艦

戦艦は過去四十年間に建造せられたのは總數 18 隻排水量約 39 萬噸でありまして、最初の艦は明治三十年竣工の富士、八島で、富士は 12,500 噸速力 18 $\frac{1}{4}$  節主砲 12 吋 4 門でありました。明治三十三年から三十五年にかけ敷島、朝日、初瀬、三笠が出來ました、是等は皆英國製でありまして日露戦争に於て帝國海軍の根幹となり國威を發揚した諸艦であります。明治三十九年に鹿島、香取の 2 隻が英國で出來ました。これは日本から基本計畫を與へたものでありまして、主砲 12 吋 4 門の外に 10 吋砲 4 門を裝備し、大艦巨砲主義の先驅であります。其の次が薩摩、安藝で純然たる日本の設計に基き我海軍工廠で建造せられたるもので、薩摩は 12 吋砲 4 門 10 吋砲 12 門速力 18 $\frac{1}{4}$  節排水量約 19,400 噸で、我造船技術の躍進的進歩でありました。安藝は排水量を稍大として速力 20 節で初めてタービン式機關を採用致して居ります。次で明治四十五年攝津、河内が出來 12 吋砲 12 門で巨砲單一主義の最初の艦であります。同時代の英のドレットノートの様に砲塔を中心線上に脊負ひ式にはなつて居りません。大正四、五年に 30,600 噸の扶桑、山城、大正六、七年に伊勢、日向の 4 艦が竣工致しました。主砲は従來の 12 吋に對し砲戰距離の延長、命中率の増進、破壊力の増大の

ため 14 吋となり、全部船體中心線上に裝備し兩舷に全部發射されます。副砲は扶桑級は 6 吋 16 門、伊勢級は 5.5 吋 20 門で、速力は各々  $22\frac{1}{2}$  及 23 節であります。同時代の列強の戦艦に比して砲撃威力に於ても速力に於ても優つたものであります。大正九、十年に長門、陸奥が出來ました。排水量 33,800 噸で主砲は 16 吋であります。副砲 5.5 吋砲 20 門で速力 23 節で、主砲に 16 吋砲を採用したのは列強軍艦中長門が最初であります。陸奥は大正十年の竣工でありまして、當時開催せられたワシントン軍縮會議に於て夫れを廢棄するかどうかが大問題となり、我主張によつて結局之れを存續することとなり、其の代償として英國は 35,000 噸 16 吋砲戦艦 2 隻を建造することとなりましてネルソン及ロドネーが出來ました。米國も亦廢棄せんとした 16 吋砲艦 2 隻を存續し合計 3 隻を保有しましたもので、陸奥の存續問題は同會議で仲々やかましかつたものであります。同會議當時は日英米共大艦を建造又は計畫中でありまして、我國では加賀、土佐を建造中であり、加賀は大正十一年に進水して居りますが、その後航空母艦に改造せられました。同艦は戦艦としては排水量 39,900 噸 16 吋砲 10 門速力 23 節で、防禦力も大いに増大した艦でありました。土佐は進水後廢棄せられました。八八艦隊の戦艦として尙 4 隻の計畫がありましたが實現せず終りました。ワシントン會議により戦艦の建造は中止せられ、現在迄十六年間は戦艦の新造は致しませんでした。扶桑以降の諸艦に改装を施し新式化を行ひました。即ち甲板防禦及水中防禦の増加、高角砲の裝備等で、副砲及發射管は減少致しました。ワシントン會議に於きまして軍艦の排水量を基準状態の排水量で發表することになりまして以來夫れによつて居ります。基準状態とは艦が完成し戦闘航海をなす状態から燃料及豫備給水を引いたものであります。

### 巡洋戦艦及装甲巡洋艦

過去四十年間に於て我海軍の建造しました巡洋戦艦と名のつく艦は 4 隻 11 萬噸、装甲巡洋艦は 12 隻 13 萬噸であります。現在巡洋戦艦は戦艦中に、装甲巡洋艦は海防艦其の他に含まれて居りますが、便宜上舊艦種によります。

装甲巡洋艦の最初は明治三十一年竣工の淺間で排水量 9,700 噸主砲 8 吋 4 門、速力  $21\frac{1}{4}$  節であります。次で常盤、八雲、吾妻、出雲、磐手が出來まして、日進、春日は日露戦争直前に購入致し、是等は日露戦争に活躍致しました。同戦役後明治四十年に筑波、生駒が建造せられました。排水量 13,500 噸で 12 吋砲 4 門速力  $20\frac{1}{2}$  節で、何れも吳工廠で竣工致して居ります。その以前内地で建造しました一番大きい艦は橋立で、明治二十七年竣工、排水量 4,210 噸で、其後約十三年間は内地の建艦は僅かでありましたのに、斯の如き大艦を遺憾なく建造せられた先輩諸君の苦心は如何許りであつたかと敬服する次第であります。次に鞍馬、伊吹が出來ました。姉妹艦であります伊吹はタービンを装へ速力  $1\frac{1}{2}$  節を増して  $22\frac{1}{2}$  節であります。大正二年に技術輸入の意味で金剛を英國に注文し、始めて 14 吋砲を搭載しました。當時英國は 13.5 吋砲を搭載して居りましたに對し一段進歩して居

ります。

姉妹艦比叡、榛名、霧島は内地で建造せられました。比叡は只今練習戦艦となり、他の3艦は改装して新式化致しました。

## 航 空 母 艦

飛行機の發達に伴ひ極めて重要な艦種の一つでありまして、ワシントン軍縮會議の結果制限を受けました。我國最初の航空母艦は鳳翔でありまして、大正十一年竣工基準排水量 7,470 噸速力 25 節であります。次で大正八年に排水量 7,100 噸の龍驤が出來ました。その他に巡洋戦艦及戦艦から改装した赤城、加賀があり、昭和十年には 10,050 噸の蒼龍が進水致しまして目下艤装中であります。

## 巡 洋 艦

過去四十年間に建造せられた巡洋艦は隻數 41 隻、排水量約 149,000 噸であります。

最初は明治三十年英國製の高砂で、千歳、笠置は米國製であります。以後の巡洋艦は總て内地で建造せられました、夫々の用途によつて計畫せらるるので年代によつて排水量は戦艦の場合の様に増加して居りません。明治四十五年に 5,000 噸の筑摩、平戸、矢矧が出來ました。速力 26 節で巡洋艦として最初のタービン裝備の艦であります。次で天龍、龍田が出來、大正九年から十三年の間に球磨級、長良級、川内級等 14 隻の 5,500 噸級 5.5 吋砲 7 門、發射管 8 門の艦が出來ました。是等の建造中計畫したのが夕張で、排水量は基準状態にて 2,890 噸に減じ、而かも砲及發射管を船體中心に裝備し、砲は脊負ひ式として片舷に全砲を發射し得る様にして、大いに能率のよい艦が出來ました。次で砲威力を増大するために 8 吋砲搭載の巡洋艦を計畫中ワシントン會議が開かれ巡洋艦の單艦最大噸數を 10,000 噸とし大砲は 8 吋に制限せられましたが、その直後に出來ましたのが基準排水量 7,100 噸で 8 吋砲 6 門速力 33 節の古鷹級 4 隻で、巡洋艦として 8 吋砲を搭載した世界最初の艦であります。昭和三年、四年に妙高級 4 隻、昭和七年に高雄級 4 隻が出來ました。何れも基準排水量 10,000 噸で、8 吋砲 10 門發射管 12 又は 8 門で、速力 33 節で、他の列強 10,000 噸巡洋艦に比して優れて居ります。紙上の威力が大なるばかりでなく艦の動搖性能等も優秀であります。昭和四年に倫敦軍縮會議が開かれ、巡洋艦、驅逐艦、潜水艦等の保有噸數が制限せられ、又夫等の單艦噸數も制限せらるることとなり、その後計畫せられましたものは 6.1 吋砲 15 門を搭載した基準排水量 8,500 噸の最上級 4 隻であります。

## 驅 逐 艦、水 雷 艇

過去四十年間に建造せられた水雷艇 71 隻、排水量約 11,000 噸、驅逐艦 186 隻、排水量約 174,000 噸であります。

最初の駆逐艦は明治三十年英國へ 12 隻注文し、その後 4 隻を加へ大正四年巡航用としてディーゼル機関を持つた浦風が注文せられました。其の他は總て内地製であります。日露戦争後には春雨級 375 噸 29 節のもの約 40 隻建造せられました。

明治四十年に一等駆逐艦の先驅たる海風、山風が竣工し、排水量は一躍 1,150 噸速力 33 節で、タービン式機関を装備した最初の駆逐艦であります。大正五年から昭和二年迄の間に天津風級、沖風級、峯風級、神風級、陸月級等 41 隻が建造せられ、排水量約 1,300 噸速力 34 節で、12 糎砲 4 門發射管 6 門、大正九年の峯風以降はオールギヤードタービンを装備し、燃料消費も減じ高速を出すのに都合よくなりました。昭和三年から七年に互つて吹雪型 24 隻が竣工しました。基準排水量 1,700 噸速力 34 節、12.7 糎砲 6 門、發射管 9 門で其の兵裝は威力極めて大であります。次で 1,400 噸の初春級 6 隻白露級 2 隻が昨年中に竣工し、引續き本年中に數隻竣工の豫定であります。兵裝は吹雪級に比して稍減じて居ります。

二等駆逐艦は明治四十五年に 600 噸の櫻、橘を最初としまして、大正十年迄に 48 隻出來て居ります。その後は建造致しません。

水雷艇は明治三十七年竣工の鴻型を最後として建造致しませんでした。倫敦軍縮會議後駆逐艦保有噸數を制限せられて以來其の不足を補ふ爲に又復活して基準排水量 600 噸以下とし、制限外艦艇として建造しましたのが友鶴級 4 隻でしたが、小排水量に比較的大なる兵裝を搭載したる結果は復原性能に缺くる所あり、友鶴は昭和九年荒天に遭遇して顛覆致しましたのは遺憾なことであります。小型艦艇の復原性能上に重要な教訓を與へて居ります。その後改造をなし兵裝を減じまして無事就役して居ります。

## 潜 水 艦

過去四十年間に建造せられた隻數 91 隻、噸數約 90,000 噸であります。

内火式機関の發達、二次電池及電動機の發達と共に艦の威力は次第に向上して來ました。最近竣工のものは伊號第 74 で排水量 1,400 噸速力 20 節發射管 6 門、12 糎砲 1 門であります。

其の他色々の艦種がありますが略します。

軍艦の發達には申す迄もなく砲、魚雷、電氣其の他の諸兵器、甲冑、機関等の發達に負ふ所大であります。是等は専門外に屬することゝ略すことに致します。

内容極めて貧弱で空疎なる御話を以て清聽を煩はしたことを重ねて深謝致します。